

教員氏名	吉村 いづみ	職位	教授
最終学歴	名古屋大学大学院 国際開発研究科 博士課程単位取得後退学		
学位	学術修士 (名古屋大学)		
役職	図書館長 専攻科長	所属学会	日本映像学会、日本映画学会、 日本顔学会、英米文化学会
担当科目	「異文化の理解」「海外研究」「観光英語 I・II」「英語資格講座 I・II」「TOEIC 特講 I・II」「TOEIC IA・IB」「レストラン英語」「映画とファッション」他		
研究分野	総合人文社会、地域研究、芸術学 (視覚文化論)、外国語教育		
現在の研究テーマ	英国サイレント映画 (1900年～1930年までの社会・文化史) 英国映画史 (映画とナショナリズム、英国独自のコメディなど) メディア身体表象論		
教育方法の実践	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまで経験した海外での様々な事例を、その背景にある文化や国際事情から説明し、学生が主体的に学ぶ意欲を高める授業を行っている。 2. 海外に留学する学生には、現地で生活することを想定した実践的な英語教育と国際理解教育を行っている。 3. 大学全体の英語資格取得意欲を高めるため、外部試験に特化した英語教育を行い、就職活動や進学試験に役立ててもらっている。 		
研究業績 (抜粋)	<ol style="list-style-type: none"> 1. (著書)『『因果応報』と『きずもの』における「民族自滅」とその背景』、塚田幸光編著『映画学叢書⑦映画とジェンダー/エスニシティ』所収、第四章、91-129頁、ミネルヴァ書房(2019)。(招待) 2. (著書)「白い身体、黒い肉体—『青い山脈』と『キクとイサム』における占領のイメージ」、塚田幸光編著『映画学叢書②映画の身体論』所収、第五章、121-150頁、ミネルヴァ書房(2011)。(招待) 3. (著書)「The Favor」、「最後の晚餐」他。『World Cinema』①～⑤巻、勉誠出版(1989-2004)。(招待) 4. (学術論文)「アニメーションと戦時貯蓄証書—第一次世界大戦時におけるイギリスの国内向け宣伝映画」、日本映像学会誌『映像学』第103号(2020)54-72頁。(査読有) 5. (学術論文)「映画と社会浄化運動の接点—イギリスの映画検閲と公衆道徳国民協議会」、日本映像学会誌『映像学』第100号(2018)53-72頁。(査読有) 6. (学術論文)「ジャンルとしての『顔もの』(facials)—英国サイレント映画における顔の表現」、日本顔学会誌『顔学』第16巻第2号(2016)25-33頁。(査読有) 7. (学術論文)「イギリス映画の統制—映画法(1909年)の背景と、関連する様々な規制・法令について—」『名古屋文化短期大学研究紀要第38集』(2013)1-9頁。(査読有) 8. (論考)「身体に刻印されたイギリス—『ナショナル・ギャラリー 英国の至宝』を観る」青土社発行『ユリイカ』2021年12月号、特集「フレデリック・ワイズマン」、170-176頁。(招待) 9. (論考)「英国の映画検閲といかがわしき〈病〉」、日本映画学会『プロシーディングス』(2017年)、111-115頁。 		

	<p>10. (書評) Terry Christensen, Peter Haas 著『Projecting Politics: Political Messages in American Films』、日本映像学会誌『映像学』第77号(2006年)、90-93頁。(査読有り)</p> <p>11. (書評) 江藤茂博著『時をかける少女たち—小説から映像への変奏』、日本映像学会誌『映像学』第66号(2001年)、133-136頁。(招待)</p> <p>12. (学会発表)「ジョン・ブルと戦時貯蓄証書—英国における第一次世界大戦時の国内向け宣伝映画」日本映像学会 第45回大会(山形大学:2019.6.2)。</p> <p>13. (学会発表)「イギリスの映画検閲と公衆道徳国民協議会報告書」、英米文化学会 第35回大会(法政大学:2017.9.9)。</p> <p>14. (学会発表)「ジャンルとしての「顔もの」(facials)—英国サイレント映画における顔の表現」日本顔学会 第20回大会(中京大学:2015.9.13)。本発表で「フォーラム顔学2015 原島賞」受賞。</p> <p>15. (学会発表)「R.W.ポールが捉えた英国—イギリス初期映画の題材について」日本映像学会第三回中部支部研究会(愛知淑徳大学:2015年3月14日)</p> <p>16. (招待:シンポジウム・パネリスト)「英国の映画検閲といかがわしきく病」『シンポジウム:〈汚〉の映画史』日本映画学会 第12回大会(大阪大学:2016.11.26)。(招待)</p> <p>17. (招待:シンポジウム・パネリスト)「顔は何を語るか—メディアに流通する顔を考える」(沖縄キリスト教大学:2011年12月17日)。</p> <p>18. (招待:シンポジウム・パネリスト)「イギリス初期映画の統制—BBFCと統制された映画」『シンポジウム イギリス映画「マイナー」映画のために』(日本映画学会 第8回大会(大阪大学:2012年12月1日))</p> <p>19. (科学研究費助成事業 研究成果報告書)「英国サイレント映画の社会史的研究」(2018年6月29日作成) KAKEN Website : https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-26370196/</p>
受賞歴	<p>1. 愛知県環境保全関係功労者表彰 受賞(2015年6月5日)</p> <p>2. 日本顔学会「フォーラム顔学2015 原島賞」(2015年9月13日)</p>
社会的活動	<p>1. 日本映画学会 会長</p> <p>2. 日本映画学会 常任理事</p> <p>3. 日本映像学会 中部支部幹事</p> <p>4. 韓国ソウル市、Hanyang University(海陽大学校) Contemporary Cinema Research Institute 発行、学術季刊誌『Contemporary Cinema Studies』編集委員</p> <p>5. 日本映像学会 学会誌『映像学』査読協力者(2021年、2022年)</p> <p>6. 愛知県環境影響評価審査委員(2005年4月~2015年3月)</p>
競争的資金の獲得	<p>日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 課題番号26370196 「英国サイレント映画の社会史的研究」研究代表者(平成26年度~29年度)</p>
実務の経験	<p>英語通訳者(1988-1997)として、日本とアメリカにおいて、法律、工業、環境の分野に関わる交渉、会議に携わった。</p>

